

令和7年度「インクルーシブな学校運営モデル事業」推進計画

○ インクルーシブな学校運営のおさえ

連携校が双方の特色や専門性を生かし、生徒に「交流および共同学習」をはじめとする多様な「共に学ぶ場」を提供するとともに、特別支援教育に関するより実践的な共同研修や情報交換等を可能にする、連携・協働を基盤にした学校組織マネジメント

1. 令和7年度学校経営の重点

「交流および共同学習」、「共に学ぶ」を位置付け。

2. 教職員への説明

カリ・マネ便りの発行。共同学習に関する研修会の実施。

3. 保護者・地域への説明

保護者向けお知らせ文書の発出。WE Bページ開設、通信の発行。
学校運営協議会での説明・承認。

4. 「交流および共同学習」委員会の設置

更農はSAS委員会で代替。

中高養は生徒指導部長及び学年主任を追加し委員長は教頭に変更。

5. 両校合同の「交流および共同学習」委員会の開催

両校の「成果と課題」を共有し次年度の方向性を協議。

6. 「交流および共同学習」実施要項の運用

校内支援委員会による対象生徒の決定。

7. 「連携校の教育資源を活用した教育活動」実施要項の運用

年度当初「受け入れ可能な授業等」を情報提供。

各教科・分掌等の要望取り纏め。学期毎に要望集約

○ インクルーシブな学校運営の目的

障がいの有無にかかわらず、すべての生徒が多様な個性を認め合い、支え合いながら、共に学んでいくことができる教育環境をつくり、そこでの学び合いの蓄積と広がりを通して、誰もが生き生きと活躍できる社会の実現に寄与すること

1. 生徒アンケートの実施

中高養の学校間交流「交流学习」の目標を基に「経験」と「意識」に関する質問を構成。「連携校の授業参加への興味・関心」に関する質問を追加。

注) インクルーシブな学校運営の「おさえ」「目的」「目標」は、文科省や道教委が定めたものではなく、B地区の事業推進に必要な指針として、昨年の取組を踏まえて独自に整理したものです。

○ インクルーシブな学校運営の目標

A 多様な「共に学ぶ場」を提供し、互いに尊重しながら協働して学ぶ態度を育む。

1. ねらい等を共有した学校間交流
10月初旬の実施。オンライン等を活用した顔合わせなど事前学習の工夫。
2. 更農学校設定教科「カルチベーション」における「オンライン共同学習」
実施回数の拡充。参加生徒の拡大。
3. 中高養における共同学習
年度当初に「受け入れ可能な授業等」を集約し更農へ情報提供（再掲）。
各教科等からの提案を重視。
4. 上記以外の新たな「共に学ぶ場」の提供
「連携校の教育資源を活用した教育活動」実施要項を活用して実施。

B 共同研修や情報交換等を通して、実践的指導力を高め、学校の教育力の向上を図る。

1. 初認段階教員研修における更農授業への参加
双方向の実施。
2. 更農授業公開
3. 中高養夏季講演会
4. 中高養公開研究会
5. 「共に学ぶ会」の実施
月1～2回程度の実施を継続。放課後の実施及び対面による実施を考慮。
6. 上記以外の新たな「共同研修や情報交換等」
「連携校の教育資源を活用した教育活動」実施要項を活用して実施（再掲）。

注）インクルーシブな学校運営の「おさえ」「目的」「目標」は、文科省や道教委が定めたものではなく、B地区の事業推進に必要な指針として、昨年の取組を踏まえて独自に整理したものです。